

# 放送大学新潟同窓会

会報誌 27 号



新潟みなとトンネルとみなとタワー



河口の兩岸を結ぶ水底道路トンネルが埋設してある



住 所 新潟市中央区旭町通 1 番町  
754 番地 (新潟大学旭町)  
発 行 2026 (令和 8) 年 5 月 吉日  
発行人 市 川 富 夫

## 新潟みなとトンネルとみなとタワー

信濃川河口の両岸を結ぶ8個の鉄とコンクリートで出来た沈埋函と呼ばれる箱を川底に沈めて連結した「沈埋工法」1,423mの水底トンネル

平成17年(2005)年 全線開通

みなとタワーは換気設備と監視室や展望室がある。

新潟同窓会誌 27号 編集委員

市川 富夫 (委員長)、麻場 キミ子、根津 ヒロ子、小堺 繁男、堀 正和、本間 真人

## 目 次

	(頁数)	
	1	
1 挨拶	新潟同窓会会長代行・副会長 市川 富夫	2
2 「2025年度」同窓会の報告		2
3 講演会報告 放送大学 朝倉 富子教授		4
	新潟同窓会前会長 庄司 和義	
4 新潟の偉人 新潟大学脳研究所 中田 瑞穂先生		5
	新潟同窓会会長代行・副会長 市川 富夫	
5 卒業生茶話会		6
	新潟同窓会幹事 本間 真人	
6 論文発表会		8
	江戸中期以降における民衆教育の研究 ～越後新発田藩の事例を中心として～ 大学院修士課程 人間発達プログラム修了 大山 正義	
7 私と放送大学		10
	全科履修生 佐藤 三千子 全科履修生 大越 吉明	
8 予定 (2026年度事業計画)		12

## 挨拶

### 新潟同窓会会長代行・副会長 市川 富夫

同窓会役員の交代にあたり、6年にわたりご尽力くださった会長庄司和義氏に、心より感謝の気持ちをお伝えしたく、この余白を設けさせていただきました。

会長は日々の業務やご家庭、お仕事でお忙しい中にもかかわらず、同窓会の運営や会員同士のつながりを守り、そして広げるために、惜しみないお力を注いでくださいました。

会報の発行や会員名簿の整備、行事の企画・運営など、その一つひとつが私たちの絆を深め、放送大学とのつながりをより強くしてくれたことは、何よりの財産です。

特に、コロナ禍や社会情勢の変化など、予期せぬ困難があった中でも、柔軟な対応と前向きな姿勢で会を支えてくださったことは、多くの会員にとって大きな励みとなりました。

その献身と情熱に、改めて深く敬意を表します。

これまでのご尽力は、これから新たに役員を務める私たちにとって、大きな希望となります。どうか今後も、先輩として、そして仲間として、変わらぬご指導と温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。本当に長い間ご苦労様でした。心からありがとうございました。

## 「2025年度」同窓会の報告

気象庁の報告によると、私たちの生活環境が地球温暖化で気温が底上げされており日本の夏の平均気温偏差が毎年上昇していて長期的に見れば今後も極端に暑い夏が増える可能性が高く「日本の夏の期間」が長くなっていて「春」と「秋」が短くなり「二季化」しているとのことが報告されている。

学習環境においても「Zoom」による公開講演会、「公開・オンライン講演会」「Web」による認定試験など等、大きく転換してきています。新潟学習センター「機関紙」のWeb化と所属学生への機関紙の郵送が取止めになり2025年4月から学習センターWebサイト(ホームページでの電子データ)掲載となった。同窓会の会報誌についても上記方法で郵送配布は取止めとします。ご了承ください。今後はパソコン、タブレット端末でご利用してください。

頭かに社会の変化が加速され「学ぶ」意味の問い直し、益々「生涯学習」「リカレント教育」の必要性を実感しているところです。

### <総会の要旨>

藤林紀枝所長から祝辞。総会の議題5項目の審議。

2025年度の事業報告・決算、監査報告、2026年度の活動計画・予算、役員を選任他について議題として、審議を行う。

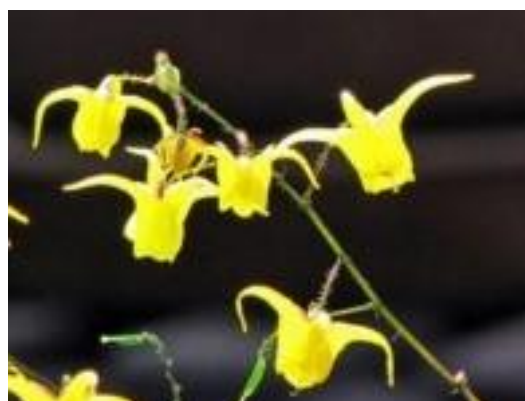
## 同窓会イベント報告

開催日	開催場所	内 容	詳 細
5月18日	新潟学習センター 第一講義室	同窓会総会	27号会報に掲載
5月18日	第一講義室	論文発表会	27号会報に掲載
9月27日	第二講義室	卒業生茶話会	27号会報に掲載
10月5日	第一講義室	公開講演会	27号会報に掲載
2月8日	学生控室	大原所長送別会	松籟会・同窓会共催

## 新体制役員(案)

役 職 名	氏 名	備 考
会 長	市川 富夫	新 任(前会長代行・副会長)
副 会 長	本間 真人	新 任 (前幹事)
事務局長・会計	堀 正和	新 任 (前幹事)
幹 事	根津 ヒロ子	新 任 (前会計監査)
会 計 監 査	麻場 キミ子	新 任 (前副会長)
会 計 監 査	荻野 洋子	新 任

顧 問	庄司 和義	新 任 (前会長)
-----	-------	-----------



イカリソウ

## 公開講演会の報告

新潟同窓会前会長 庄司 和義

2025年10月5日(日)放送大学新潟学習センターと共催で放送大学教養学部 生活と福祉コース 朝倉 富子教授をお迎えして公開講演会を開催しました。

### 講演内容「食と健康」～高齢社会の食と味覚について～

日本人の平均寿命と健康寿命の推移(高齢社会白書, 内閣府)をグラフからみると2013年には平均寿命は男性80歳台に到達し女性が6歳程度長命である状態

長寿国日本として平均寿命が意味のある数字といえるか、現在は健康寿命がより重要な数字として捉えられている。平均寿命と健康寿命の差の期間は、健康問題を抱え、支援、介護等を必要とする年数と理解することができる。

それで

#### ○健康寿命の延伸への取り組み

・ 毎日の食事(食べる)・運動促進(動く)・地域のコミュニケーション(話す)⇒Health

#### ○高齢者の食生活

・ 咀嚼の効果が記憶力の向上・認知症予防・脳内血流の増加・ストレス緩和効果

○おいしさは五感(味覚・視覚・触覚・臭覚・聴覚)すべてで感じる。特に脳で総合的においしさを判断⇒健康維持、増進、QOLに深く関係

加齢に伴い身体の機関や機能は衰え身体活動の低下から次第に食事摂取量は減少、そのときにおいしく感じるという味覚は著しく低下する。味蕾感度の低下、塩分感覚の変化で塩分摂取が多くなる。

減塩方法として代替塩の利用、酸味を利用、だしを効かす、香辛料、香味野菜を利用などで味の受容メカニズムから減塩を考える。

#### まとめ

私たちの食環境によって味覚感覚に個人差が生じフレイル・サルコペニアに影響を及ぼすことなどが健康寿命維持向上のポイント学習になった。



ニワゼキショウ

## 新潟の偉人

### 中田瑞穂先生

同総会会長代行・副会長 市川富夫

私たちの学び舎である放送大学新潟学習センター、隣に「脳といのち」のイノベーションハブ (BIH) が開設されました。新潟大学脳研究所でストックされた「ヒト脳研究資源」「ヒト脳疾患病態研究」などを基に脳疾患の克服を目指し、大学の研究資源を民間の技術と結び、産学官連携を促進し、中田瑞穂先生の「脳疾患に苦しむ患者を救う」という設立理念に立ち返り、最新のバイオソースを活用した次世代の脳科学研究を推進しています。

中田瑞穂先生が築いた「脳と向き合う」伝統は、100年の時を経て、最先端のイノベーションによって「いのち」を守る研究が加速されています。

脳研究所の建物は数か所に分散されております。

#### 創設の祖：中田瑞穂先生

中田瑞穂先生 (1893—1975) は、島根県津和野町に生まれる。東京帝国大学より新潟大学医学部に助教授として赴任したのが 29 歳の時、以後 82 歳で生涯を閉じるまで新潟西大畑に住んでおられました。日本脳神経外科の歴史の礎を築いた偉大な脳外科医です。

「日本脳神経外科の父」：脳腫瘍や脳卒中などの近代手術の基礎を築き、1948 年には新潟で第一回脳外科研究会 (現在の日本脳神経外科学会の前身) を開催しました。

1956 年に「新潟大学脳研究室」が、1967 年に日本初の国立大学新潟脳研究所へと発展する基盤となりました。

中田瑞穂先生は東京帝国大学在学中から俳句にも通じ、高浜虚子とも親交を持ち、「ホトトギス派」の同人として山口誓子らとともに「東大俳句会」で活躍されたことで有名です。新潟に赴任されてからも、脳外科研究で多忙な中のわずかな時間で句集も発行されております。俳号はみずほ、瑞翁、魯翁。

先生は絵も繊細で精密に描かれています。

先生の生誕百年の句碑が赤門を入ると左側に脳研究所が目に入ってきます。そのすぐ前の木陰道路添いに設立されています。

学問の静かに雪の降るは好き みずほ



## 卒業生茶話会

日時 2025年9月27日(土)

会場 第2講義室 時間 11時45分～12時30分

令和6年度1学期学位記授与式後に引き続き卒業生、新潟学習センター大原所長、齋藤事務長、同窓会役員と合計17名で開催いたしました。

茶話会は「くるまぎ」になって卒業生の学生生活で楽しかったことや、卒業に至るまでの経験談を語っていただき参加者全員で共有して卒業生をねぎらう場です。

茶話会は市川副会長の司会でスタートいたしました。最初に学習センター大原所長より、卒業生にねぎらいの言葉と今後も学び続けていただきたいとの話をいただきました。

庄司同窓会長からは、つながりをもっていただき次の学びのステップにつながるようネットワークをつくってほしいことや、同窓会報に「私と同窓会」テーマで寄稿をいただきたいと話がありました。

卒業生から卒業証書を手にした感想は次の通りです。

- ・業務で、たくさんの人に話す立場なので政治経済の授業を学びました。
- ・面接授業で全国の学習センターを回って勉強しながら地方の歴史や文化を吸収してきました。
- ・仕事を辞めたタイミングで気軽に入学して学びました。これからも続けていきたい。
- ・全科履修生になって卒業証書をもっとみると、友人の後押しもあり継続ができたことは友人との出会いが大切なことに気づかされました。
- ・仕事をやめたタイミングで軽い気持ちで入学、これからも続けていきたい。今振り返ると何かを探しているのではないかと思っております。
- ・今まで自分の長い人生の中で達成したことがなかった。一科目15回の放送を聞いていると先生の授業が好きになった。更にこれまで取らなかった授業を取っていきたい。
- ・Webでの授業は、沖縄学習センターの授業も簡単に受講できる。今後も研究テーマに役立つ授業を海洋発電・生態系・電力などつながっていることに気づいた。
- ・生活と福祉を学んだ。父母の介護をしている中で認知症のことを学習ができた。
- ・心理と教育を学び卒業しました。就職説明会へ行き大卒でないと応募できない企業に応募ができるようになりました。積極的に就活をしていきたい。

卒業生の感想は、それぞれの環境の中で卒業にこぎつけた経験は、未来に向けてステップアップしていきたいと希望がひしひしと伝わってまいりました。

最後に、同窓会として学生生活を満足していた卒業生に対し最高の拍手を笑顔で送りたいと思います。

同窓会幹事 本間 真人

2025. 9. 27 学位記授与式 茶話会



桃の花

# 江戸中期以降における民衆教育の研究

## ～越後新発田藩の事例を中心として～

大山正義

A study of education for ordinary people in the mid to late Edo period, with mainly focusing on research of the Shibata domain

### 1. はじめに

第二次世界大戦後、日本は存亡の難題が国家と地方を襲った。ほとんどの国民が一からの再出発を潜り抜け、豊かさを求め、その象徴としての中流階級を全国民が目指し一致団結していった。その後の高度経済成長期を駆け上がり、世界的にも経済的な豊かさを誇った。高度成長期の中でも、古くから続く「良き日本」そして「良き地域」を国民一人ひとりがお互いに連携を図りながら維持してきた。しかしながら、その後のバブル期とその崩壊、そして長期のデフレ期を経て、我が国における中流階級の体制が崩壊してきた。それは貧富の差や経済格差を意味し、それは拡大していく格差社会と今まで経験をしたことのない超高齢少子社会たる今の日本を物語っている。そんな中、日本政府は将来的な地方交付税交付金の減額も想定した国内の「平成の市町村大合併」を促進させた。その結果、各地方（地域）における希薄化が一層進み、教育を担う地域や家庭、そして学校の教育や人材育成において好ましくない状況が続いている。とりわけ多くの地方の地域においては格差の更なる拡大が見られ、その地域の形骸化に加え、地域連帯感の欠落と家庭間の孤立により、地域社会の更なる崩壊へと繋がっている。それは戦後欧米の指示の下、新自由主義社会の欧米を追い続けてきた現代日本社会の末路のように感じられる。今まさに必要なのは日本の古き良き地方を取り戻し、そして活性化し創生させることであり、そのためにも「良き日本」そして「良き地域」時代が充実してきた江戸中期以降における特に教育や人材育成・活用が、地方においてどのようになされてきたのかを探究することの必要性を切に感じた。

とりわけ、我が故郷新発田市は江戸時代新発田藩の領地を有しており、その地の公的（藩校）及び私的（私塾）な人材育成は、全国的にも例をみないほど充実していたことを本研究により明らかにしたいと考えた。

### 2. 全国的な私塾の開設とその時代背景

#### 2.1 歴史的背景

- 1) 武断政治（武威）から文治政治（文治主義）への転換
- 2) 各藩の財政難事情
- 3) 新田開発の必要性和米の生産性向上の必要性
- 4) 街道・海運・水運の整備結果による流通と人の往来の活発化
- 5) 浅間山大噴火以降の連続複合的災害の影響 1
- 6) 郷村単位での人材育成の必要性
- 7) 幕藩体制の衰退の影響

#### 2.2 社会的（文化的）背景

- 1) 文化的かつ教学的施策の高まり
- 2) 家庭教育と職業教育の充実の必要性
- 3) 日本における儒学（漢学）の開祖とその発展と継承
- 4) 国学の復興（日本古来の良き古典学のルネサンス）
- 5) 藩校の出現

表 全国における藩校一覧（抜粋）

藩名	藩校名称	設立年
岡山藩	岡山学校	1669年
長州藩	明倫館	1718年
熊本藩	時習館	1755年
新発田藩	道学堂	1772年
薩摩藩	造士館	1773年

- 6) 洋学（蘭学）の出現と発展

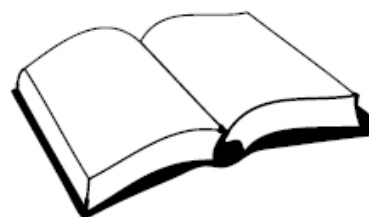
### 3. 新発田藩の自然・社会的かつ歴史的背景

#### 3.1 地理的かつ自然的要因

#### 3.2 社会的かつ歴史的要因

#### 3.3 米の生産性の要因

#### 3.4 早期からの藩主による学ぶことへの政策の定着



<sup>†</sup>2024年度修了（放送大学大学院修士課程人間発達科学プログラム）

## 4. 新発田藩内の人材育成術

### 4.1 思想的学問以外に実学が求められた背景など

### 4.2 歴代の藩主の学問奨励策の変遷

### 4.3 8代藩主による一般民衆向け学問奨励策

1) 「士庶同学」の精神 2) 教科書等の印刷 3) 藩校「道学堂」設立のねらい

### 4.4 藩学とした山崎闇斎の崎門学の指定理由

### 4.5 崎門学以外の儒学や国学との関係性

### 4.6 寺子屋の実態と私塾との関係性

### 4.7 私塾と藩（藩校）との関係性

### 4.8 新発田藩独自の民衆教育制度である「社講制度」

### 4.9 新発田藩独自の一般民衆学問奨励・報償制度

### 4.10 新発田藩における私塾

- 1) 積善堂（丹羽伯弘） 丹羽伯弘の教え「学問は自己の名声にあらず、先人の智恵を知り人の道を説くもの」
- 2) 絆己楼（上記の丹羽門下の大野恥堂）
- 3) 小川心斎の庄屋宅（塾名なし）
- 4) 坂井経堂による庄屋宅（塾名なし）
- 5) 光晴塾（曾我簡堂）
- 6) 遠藤七郎による庄屋宅（塾名なし）

## 5. 越後国における他地域の私塾

### 5.1 長善館（燕市粟生津）

- 1) 全寮制の採用
- 2) 都講制度の採用
- 3) 実践主義
- 4) 質疑応答の採用
- 5) 輪講の採用

### 5.2 三余堂（柏崎市南条）

### 5.3 朝陽館（小千谷市片貝）

## 6. まとめ

### 6.1 江戸時代中期から幕末維新期までの民衆教育の重要性

- 1) 新発田藩内の私塾と他藩等の私塾との比較考察
- 2) 卒塾生が社会に与えた影響
  - イ) 戊辰北越戦争での功労
  - ロ) 政治功労
  - ハ) 教育功労
  - ニ) 産業功労

### 6.2 時代の変遷による私塾の変化と終焉

- 1) 役割の変化とその後の状況
- 2) 学制発布後の学校の特徴
- 3) 江戸時代の寺子屋や私塾の教育システムの特徴

①入学式や卒業式もなかった。 ②設立・開塾の許認可や届け出制度はなかった。 ③指導者の資格条件もなかった。 ④学年・学級的なものは存在せず、全員が同部屋で学ぶことから必然的に上級生が下級生を指導するという慣習があった。 ⑤使用教材は存在したが、それは塾によって異な

っていた。 ⑥授業料等も塾によって異なっていた。 ⑦江戸時代の寺子屋には、盲児、聾啞児、肢体不自由児、知的障害児童等の障害児がかなり在籍していたという報告はあるが、私塾での事例は確認されていない。上記のとおり江戸時代の寺子屋における特に発達段階にある児童に対する指導体制は、まさに現代の初等教育システムで叫ばれている健常児と障害児とのインクルーシブ教育と言え、温故知新的に教育や人材育成に関して、現代の学校教育体制は江戸時代に見習う必要があると考える。ただこれは、学校だけを責めるものではなく、社会教育における地域や家庭内教育の活性化が土台として求められると考える。

## 7. 最後に

明治初年の新潟県は、全国屈指の大県として政治・経済・教育文化の各部門とも全国をリードする位置にあった。それが故に新潟県の人口も増加の一途を辿っていた。つまり、人材育成の充実により産業（農業）が活発化され、それに伴い人口における自然増及び社会増も見られた。1873年における日本の人口調査によると、新潟県の人口は全国第一となり第二位の兵庫県を7万人ほど離していた。ところが、明治20年代後半以降からの新潟県は、急速に近代化していく関東圏・近畿圏などの太平洋岸側に立ち遅れ始め、次第に後進県つまり裏日本化への道を進むことになり、それ以後、我が新潟県は若者の関東・関西圏への流出に伴う社会減が止まることのない人口減を筆頭に一層日の目を見ない時代が続いている。とりわけ、中等及び高等教育においては他県に見られるような先進的なシステムや事業は皆無に等しく、教育行政は問題対応などの措置に留まっていると感じる。そんな中、最後に述べたいのが、旧新発田藩の領地だった現新発田市地域における現在の教育は、新潟県内でも劣悪化の一途を辿っていることである。これは国全体が超少子高齢社会であるという他力本願的な事由にすることだけでは済まされない現実がある。江戸時代幕末維新期の地方藩かつ外様大名藩であった新発田藩。その藩内における藩士並びに一般民衆の教育・人材育成システムは、今回の探究を通して「日本一」だったと主観的ではあるが、そう感じている。しかしながら、今の新発田市を含め周辺自治体の教育システムには、幕末維新期当時に見られた良い意味での特殊性や奇抜性は、今の学校教育や社会教育においては微塵も感じられず、改善や充実の現状では見当たらないように本研究を通して感じており、これは生まれ故郷を思う個人としても甚だ残念である。

## 8. あとがき

このダイジェスト版では完璧に伝えることが困難である。箇所によっては項目だけとなり理解しがたい部分もあるが、その際には放送大学ウェブサイトにて全文を検索されたし。本論文作成にあたり、指導いただいた岩永先生を始めとする諸先生方から多大なるご指導を賜り感謝に堪えない。

## 私と放送大学

全科履修生 佐藤 三千子

私の両親は二人共 40 歳代の若さで亡くなりました。その後、私を子どもの頃から可愛がってくれていた伯父から「自分の仕事を手伝って欲しい」と誘われたので、私は高校を卒業すると直ぐに上京して約 35 年東京に住んでいました。「西荻窪」という所で吉祥寺や新宿にも近くて青春を楽しんでいましたが、その伯父が 1998 年に亡くなってしまいました。

これからどうしようかと考えていたところ、中条に住む兄から「新潟に帰ってきたらどうだ？」と言われ、思い切って新潟に戻って来ました。最初は何もやる事がなくて色んなサークルに参加したりして落ち着かない生活を送っていました。

ある時たまたま乗ったバスに放送大学の紹介放送がありました。直ぐに興味を持って学習センターに資料を貰いに行き、そして申し込みをしました。しかし入学しても何も分からず、取り敢えず選科生に申し込みしましたが、後ほど学生控室で皆さんと色々話しているうちに、皆さんの勉強に対する熱意に圧倒され「私も頑張って卒業証書を貰えるまでやりたい！！」という目標が出来ました。

最初はそんなに難しいとは思わなかった科目も、この頃は歳のせいや段々と難しくなってきました。

今の私の学生生活の楽しみは研修旅行です。個人で行くのが大変な所も、幹事の方々が前もって色々と下調べをして下さるので安心して楽しい旅行に参加させて頂いています。

面接授業は最初に何回か参加していましたが、この頃は体力的にちょっと難しくなってきました。

また一流の先生による対面の勉強会は、とても楽しく今まで知らなかった事がこんなに多かったのかと再認識させられています。

本当に、もっと早く放送大学の事を知っていれば良かったと後悔していますが、これからは体調に気を付けてゆっくり、焦らずに、長く勉強を続けていきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いします。



## 私と放送大学

全科履修生 大越 吉明

人生の荒波を潜り抜け、ようやく穏やかな暮らしにたどり着いた今、あらためて「学ぶ」という時間のありがたさを感じています。昨年の春、私は放送大学に入学しました。若い頃、いつかはゆっくと学びなおしたいと思いながら、日々の暮らしに追われて叶わなかった願い。その続きを、いま静かに始めているような気持ちです。

放送大学のよさは、場所や時間にしばられず、自分の歩調で学べることにあります。自宅で講義を聴き、分からなければ巻き戻し、もう一度耳を傾ける。急がれることもなく、ただ自分の速さで机に向かうひとときが、心をやさしく整いてくれます。

所属する新潟学習センターでの面接事業も、私にとっては大切な日です。会場となる新潟大学の赤門をくぐると、胸の奥がふわりと温かくなります。教室には若い世代だけでなく、同年代の方々の姿もあります。休み時間は「どの科目ですか」「試験はどうでしたか」と声を掛け合い、小さな笑いが広がります。机を並べれば、年齢を超えて同じ学ぶ仲間。その空気に、私はそっと励まされています。

心理学では、経験を重ねることで深まる知の力を「結晶性知能」と呼ぶそうです。人生を歩んできた分だけ、言葉や出来事の意味がしみじみと胸に届く—そんな力が育っているのだと思うと、年齢を重ねることも悪くないと感じます。若い頃に読んだ本が、今は別の光を浴びて立ち上がるのも、そのためかもしれません。

残された人生の仕上げとは、大きな成果を求めることではなく、自分をやさしく整っていくことでしょう。学ぶ時間は、心を少しずつ耕し、静かな灯りをともしてくれます。今日も老眼鏡をかけ直し、ページをめくります。飾らず、気負わず、けれど凜として。静かにめぐるときの中で、そう在れたならと願っています。

### 自己紹介

仕事を退き、妻と二人、愛犬と共に穏やかな日々を送っています。造園やDIY、読書など趣味は尽きず、知的好奇心はだけはどうやら定年がないようです。そんな私には放送大学はまさに最適の学び舎。学生気分を忘れず、学ぶ愉しみを日々の張り合いにしています。

## 予定（2026年度事業計画）

### ○ 放送大学新潟同窓会総会

5月17日（日）午後1時から 新潟学習センター 5階第1講義室

#### 1 論文発表会（総会に引き続き） 午後2時から 5階第1講義室で開催

発表時間・発表テーマ・発表者

14:00～14:10 開会挨拶 同窓会会長・藤林紀枝新潟学習センター所長

14:10～14:40 発表 民生委員の役割規定、役割曖昧性に関する研究

「新潟市民生委員及びその関連機関の語りの分析から」

大学院修士課程 生活健康科学プログラム修了 大嶋 陽 氏

14:55～15:25 「仏教説話集『三宝絵』についての一考察」

大学院修士課程 人文学プログラム修了 小塚 繁男 氏

（小塚氏は2025年度まで同窓会役員。92歳の過去最高年齢で

放送大学大学院を修了されました）

14:40～ 講評 藤林センター所長

15:45 閉会

#### 2 卒業生茶話会

2026年第1学期学位記授与式（午前中）・第2学期入学者の集い（午後）

9月26日（土） 学位記終了後に卒業生茶話会（同窓会主催）を開催します。

#### 3 公開講演会（放送大学新潟同窓会、放送大学新潟学習センター主催）

10月4日（日）14時00分から15時30分

講演 「北前船稼業のリアル～儲けとリスクの現実をみる～」

講師 横木 剛 氏（新潟大学非常勤講師、新潟ハイカラ文庫事務局長）

日本遺産にも認定され、その存在や名称について広く知られている北前船について、具体的な商業活動や様々なリスク史料をもとに解説します。荒波を越え大金を掴むビジネスというイメージで語られがちな北前船稼業のリアルな一面を知って、理解を深めましょう。

参加人数 60人（放送大学新潟学習センターのホームページで募集案内をします）

#### 4 情報発信

放送大学新潟学習センターホームページでの会報誌での公開をはじめ、情報活動を進める。